

第 14 回中野総合学科新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 7 月 29 日（火）

18 時 00 分～19 時 30 分

会場：中野立志館高等学校 大講義室

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 自己紹介

4 会議事項

（1）「第 13 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）NSD（長野県スクールデザイン）プロジェクトについて

・プロポーザル実施要領、スケジュール

（3）統合方法について（意見交換）

（4）その他

5 その他

<次回の予定>

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

中野総合学科新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名（○：座長）	所属等
1	自治体	竹内 敏昭	中野市 副市長
2		久保田 敦	山ノ内町 副町長
3		○柴本 豊	中野市教育委員会 教育長
4		竹内 延彦	山ノ内町教育委員会 教育長
5	産業界	藏谷 伸太郎	信州中野商工会議所 議員
6		中島 弘子	山ノ内町商工会 女性部部长
7	同窓会	斉藤 武美	中野立志館高等学校同窓会 副会長
8		芦澤 孝幸	中野西高等学校同窓会 会長
9	PTA	関 健	中野立志館高等学校PTA 会長
10		青木 正実	中野西高等学校PTA 会長
11		荒井 健悟	中高PTA連合会（中学校代表）
12		宮澤 昭雄	中高PTA連合会（小学校代表）
13		寺島 重則	小布施中学校PTA 副会長
14	学校関係者	滝澤 崇	中野立志館高等学校 校長
15		森角 太一	中野立志館高等学校 教諭
16		堀内 和徳	中野西高等学校 校長
17		荒川 英子	中野西高等学校 教諭
18		大塚 秀樹	中高飯水校長会 会長（南宮中学校）
19		渡邊 浩司	中高飯水校長会 副会長（高丘小学校）
20		嶋田 和美	上高井郡校長会（小布施中学校）
21	学識経験者	大日方 悦夫	元県立高等学校長
22	地域	小池 広益	北信地域振興局 局長
23		小林 妙子	山ノ内町
24	生徒	佐藤 奏夢	中野立志館高等学校生徒会 会長
25		那須 文太	中野立志館高等学校生徒会 副会長
26		池田 愛美	中野立志館高等学校生徒会 副会長
27		小林 壱吹	中野西高等学校生徒会 会長
28		小山 莉奈	中野西高等学校生徒会 副会長
29		黒瀬 漣	中野西高等学校生徒会 副会長

事務局

中野立志館高等学校		中野西高等学校		高校再編推進室・施設係	
生田 憲克	教頭	小林 英司	教頭	原 多恵子	主幹指導主事
森角 太一		宮尾 久枝		山崎 巖	主任指導主事
小林 ちひろ		島田 味知子		熊谷 憲輝	担当係長
清水 潔		佐藤 拓哉		貝野 宗司	主事
阿部 佳代子		荒川 英子			

第 13 回中野総合学科新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 6 年 (2024 年) 4 月 30 日 (火曜日) 18 時 00 分～19 時 30 分		
場 所	中野市中央公民館 301 講堂		
出 席 (敬称略)	竹内敏昭、久保田敦、柴本豊、竹内延彦、藏谷伸太郎、黒井悦子、芦澤孝幸、笠原広、青木正実、荒井健悟、宮澤昭雄、寺島重則、滝澤崇、森角太一、堀内和徳、荒井英子、大塚秀樹、渡邊浩司、嶋田和美、大日方悦夫、小池広益、小林妙子、佐藤奏夢、那須文太、池田愛美、小林壱吹、小山莉奈、黒瀬漣 (以上 28 名)		
欠 席 (敬称略)	斉藤武美 (以上 1 名)	傍聴者	5 名 (オンライン 2 名含む) 報道 4 社
事務局	中野立志館高校	生田教頭 (事務局長)、清水教諭、小林教諭、阿部教諭、森角教諭	
	中野西高校	小林教頭 (副事務局長)、宮尾教諭、島田教諭、佐藤教諭、荒川教諭	
	県教育委員会	井出主幹指導主事、熊谷担当係長、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事	
当日資料	次第、構成員名簿、第 12 回懇話会まとめ、再編実施基計画、NSD について、地域共学共創コンソーシアム・統合方法について		

会議事項

- (1) 第 12 回懇話会まとめについて
- (2) 再編実施基本計画について
- (3) NSD (長野県スクールデザイン) プロジェクトについて
- (4) 地域共学共創コンソーシアム・統合方法について
- (5) 今後のスケジュールについて

主な内容 (・意見、質問等 →事務局回答)

- (1) 「第 12 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ
 - ・意見なし (承認)
- (2) 再編実施基本計画について
 - ・意見なし
- (3) NSD (長野県スクールデザイン) プロジェクトについて

ア プロポーザルについて

 - ・プロポーザルはいつ行われるのか。
⇒現段階では、プロポーザルの公告を 6 月下旬頃の予定としている。(⇒7 月 12 日公告)
 - ・除却、改修する棟以外は、現状のものを活かしていくということを条件にプロポーザルを行うのか。
⇒プロポーザルの条件は、まだ固まっていない。プロポーザルの条件が詰まっているほど、より具体的な提案をいただけると考えている。プロポーザルの条件を確定する前にご意見をうかがい、内容をまとめていきたい。
 - ・プロポーザルに参加する設計者からは、ハード的にこうした方がよいといった提案をしてもらえるのか。
⇒先行 5 校のプロポーザルでは、単純にそのものを除却して同じように建てるというよりは、それをいかに有機的に組み替え、新たな学びであったり、新校に望む姿というものを実現できるかということも提案していただいている。
 - ・プロポーザルでの提案が完成形ということではなく、その後も関係者の意見を聞きながら進めるということではどうか。
⇒プロポーザルは設計者を決めるというものであるもので、その後、学校や地域が望むものを取り込みながら、基本計画の策定を進めていくことになる。コンペ方式では、条件を固めた上で提案していただき、最も相応しいものを選ぶという審査になるが、プロポーザルでは、パートナーとなる設計者を決めていくという形になる。これまでの審査会では、提案をフレキシブルに見直していきける、より良い方向にブラッシュアップしていただけるような設計者を選んでいただいている。
 - ・審査員は、どのような方か。
⇒昨年度までの審査員は、建築の専門家が約半数、その他に地域社会を専門にされている方、また教育

の中での建物、教育工学を専門にされている方に審査をお願いしている。

イ 大講義室について

- ・ 4階棟、定時制棟、職員室棟、総合実習棟の4棟を除却ということだが、配置を見ると、大講義室だけ残ってしまいグラウンドへの出入りが狭くなると思う。大講義室を除却するという提案をしてもよいのか。
⇒大講義室については除却の対象とはしない方向である。大講義室はかなり新しい建物である。基本的に新校の学びに使っていけるものは使用していきたいと考えている。
- ・ 総合学科にとって大講義室は一番重要な施設であり、一番新しい建物である。これを建て直すというよりは、机の配置など、もっと使いやすくしてほしい。
⇒要望として検討していく。

ウ 定時制棟について

- ・ 定時制棟の建て替えは、どんな方向で考えているのか。
⇒新築する建屋が一体となるか独立棟とするのか、これから検討していくことになる。ご意見をいただきたい。

エ 農業の学びについて

- ・ 中野立志館高校では、総合学科の専門科目として、工業、商業、福祉があつて、そこに農業がある。以前の懇話会の中でも中野が農業市という話があつたように農業の学びは重要である。建屋のどこを考えると農業の余地がほとんどない。農業のことを考える余地はないだろうか。
⇒農業の学びについては、懇話会の中でご意見をいただき、学びのイメージに記載している。具体的な教育課程は今後検討していくことになる。懇話会でもご意見をいただきたい。

オ その他

- ・ 緑が少ないので、何か新しい方式で緑を増やす工夫はできないか。
⇒施設整備基本計画を策定していく中で、ご意見を改めていただきたい。
- ・ 屋上を使えるようにしてもらいたい。楽しい学校をつくってほしい。

(4) 地域共学共創コンソーシアム・統合方法について

ア 統合方法について

- ・ 一斉統合での転校に伴って、中野西高校の方で総合学科のカリキュラムに合わせなければならないとのことであるが、総合学科での多様な学びの中で普通科の学びも可能ではないか。
- ・ 一斉統合にしないと、最後は3年生だけ残ってしまい、学校が寂しいものになる。部活でも大会に出場ができないようなことであれば可哀そうである。一斉統合がよいと思う。
⇒普通科のカリキュラムは可能。統合方法によるメリット・デメリット考慮し、懇話会でご意見をうかがいながら、生徒に対して負荷が少ない統合方法を考えていきたい。
- ・ 一斉統合になった場合は、例えば中野西高校の生徒も中野立志館高校の生徒も新校の卒業となるのか。年次統合にしておけば、中野西高校の生徒は寂しくはなるが、それぞれの学校の卒業生となるのか。
⇒一斉統合では、新校に転校し新校の卒業生となる。年次統合であれば、それぞれの学校の卒業生となる。
- ・ 中野西高校の生徒として卒業したいと思う。入学する時の目的や意志があつて、その高校に入学したと思うので、最後はその学校で卒業を迎えたいと思う。
- ・ 一斉統合では、生徒数が増え文化祭など楽しいと思う。貴重な経験になる。年次統合では生徒が減って行って、寂しいと思う。
- ・ 中野実業高校と中野高校を統合した時の状況も示してもらいたい。
- ・ 新校開校に向けた広報を早い時期に始めてもらいたい。入学後のことなど、保護者にも説明してもらいたい。子どもと一緒に進路をきめるプロセスをしっかりと持ってもらった方がよい。

第13回中野総合学科新校再編実施計画懇話会アンケートまとめ

1 NSDプロジェクトについてのご質問、「学びから考える空間」としての施設整備へのご要望

<ul style="list-style-type: none"> ・既存の大講義室等が残るので、グラウンドへのアクセスが良くないと感じます。大講義室を含めた解体工事新案が良いのではないのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代、これからの学びにふさわしい学校空間の整備の理念のもと、生徒もそうですが先生方も良い環境の中での学校生活を送れるような素敵な計画であると感じました。まさにウェルビーイングの実現のため、様々な視点から綿密に考えられた計画であると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・工業、商業、福祉に加え、農業にもさらに充実させていくというのは無理だと感じました。限られたスペースで十分な学びの空間を実現するためには、あれも、これもとはいかないと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の目標、目標実現のための手立てを明確に施設整備に賛成です。ただ、この理念にこだわり過ぎ、個性的な施設故に、施設の部品が、特注になったり、僅少な物を使ったりすることで、完成に向けてのコストだけでなく、修理等の維持費がかかることは、持続可能ではないと考えます。 ・また、緑が多い方がいいということで、樹木を植えるといった計画もあるようですが、10年、20年後の管理、維持が大変です。平成初期に建てられた小中学校の悩みどころは、近隣住民から、枝が電線まで伸びている、落ち葉を片付けてほしい、倒木が心配といった苦情も少なくありません。樹木については、地域の方もしっかり共通理解しておいた方がいいと感じます。大変下世話な意見で申し訳ございません。
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学び方を認めていく中で、入学後に学校に毎日行くことが難しくなった生徒のための、通学与通信の中間的な教室を整備、設置できないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・正直、まったく話が分らなかったです。ただ、統合の話は小学校もいずれ統合しなければならないので、現在もいろいろ会議がなされています。是非、これからも将来の子供達の為にたくさん協議していただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルの評価者選定、選定方法をしっかり決めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・新しく創る空間、既存施設を改築する空間とも、生徒、保護者、地域の方々が思わず通いたいと思う施設設備や空間、環境の策定を望みます。また、大講義室は広域的に現状6クラスがマックスかと思います。最大8クラス320人が収容可能な広さへの対応もご検討ください。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画プロポーザルの審査員に、中野新校の学び、中野市のまちづくりを熟知している人が係るのか？（説明の中では「専門家」との話はあったが、一般的な視点だけでなく、個別の視点が必要ではないか）
<ul style="list-style-type: none"> ・新校の魅力になるような、交流と個の学びが発展できるフレキシブル、多様な空間であることを期待します。
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは男子トイレ、女子トイレ、誰でも使えるトイレを設備した方がいいと思います。理由としましては、今性別で悩んでいる人が多いです。その多くが若者であるからです。 ・男っぽい格好をして女子トイレに入ることを嫌がる人もいると思います。

2 地域共学共創コンソーシアムの構築に向けてのご意見・ご要望

<ul style="list-style-type: none"> ・2年生からの専門学科では、単位が足りず、資格の受験資格を得られない業種もあります。1年生からの専門学科教育を望みます。(大学進学コース。専門コース)
<ul style="list-style-type: none"> ・新校における魅力づくりを進めていくため、今後、生徒自身もそうですが、先生方、保護者、そして地域の皆様、全ての方々がつくっていくものであると思いました。高大連携や中高一貫についても、時々の状況に合わせて柔軟に対応していくことも必要と感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に人材を残す観点からも、地元の中小企業との連携して、課題に取り組むシステムはとても良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加ですので、これからの懇話会で理解していきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・良いことだと思うので、継続してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の組織や行政などで新校の学びを応援していただけるコンソーシアムの実現を希望します。
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に外に出て、課題解決のために協働、共創する。単なる交流ではないところを広くアピールしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・高卒で市役所に就職したい人向けに、市役所に実際行ってみて市役所の仕事を実際に生徒に見せるという活動をした方がいいと思います。

3 統合方法についてのご意見・ご要望

・年次統合が良いと思います。生徒の学びと進路にも影響してくるのが心配です。
・カリキュラムの問題を考えても、年次統合が良いと思う。
・一斉統合が良いと思います。理由は、中野西高校の最後の2年生、3年生が年次統合になると在校生がいるので部活動が縮小されてしまうことや、後輩がいない学生生活になり、かわいそうな感じがします。
・私は一斉統合がいいと思いました。人数は多くなるかと思いますが、中西の広い校舎に3年生だけが取り残されるのは苦しいものがあると思います。
・年次、一斉、それぞれのメリットとデメリットについてさらに教えていただきたい。
・統合高校の部活の大会参加について周知をお願いします。
・会の中でもお話があった様に、生徒、先生方の配置バランス等、まだ少し議論することが必要と思いました。中実と中野の合併時の問題を踏まえながら進めていくと良いと思います。
・会でも話したが、親や地域への情報発信は前倒しで、できるようにしてほしい。
・初めての参加ですので、これからの懇話会で理解していきたいです。

4 その他

・今後もオープンな懇話会を通じて、地域の方に良く知ってもらえる高校再編であってほしいです。
・毎年、希望する高校について、中学校3年生へのアンケートを行い、受験生の進学希望の傾向を見ていますが、統合期間の対象の中学生、その先の中学生の進学希望はどのようなのが心配であります。長年、中学校の進路指導をしていると公共交通機関の利便性、さらには保護者が通勤を兼ねて車にて送迎可能なことから、私立高校を併願して長野市や松本市といった都市部への高校への進学希望、更には実際に進学する中学生が増えてきているように感じています。どの高校も「学び」についての特色を出していただいております、「学び」への意欲付けについては、都市部とその周辺校の差がない一方、高校選択の材料が、通学が便利、市街地、伝統、雰囲気といった観点を中心になっていると思います。また、保護者や地域の方が、「新校」に対して、2つの学校が統合したから半分は統合前の学校と変わらないとか、統合前と同じ場所にあるから、以前の学校と変わらないイメージをもってしまわないだろうか、そのようなイメージをもつことがないように配慮することも必要だと感じます。これからの時代を作っていく子どもたちが「新校」で新鮮な気持ちで学ぼうとする意欲、姿を大切に、学校や行政だけでなく、生徒、保護者、地域全体で作っていけるようにしたいと感じました。
・説明の時に横文字（英語）で表現するのは分からないのでやめてもらいたいです。
・総合学科のコース制(系統)の中に、普通科の学びやグローバルな学びに類する系統を入れることを検討していきたい。
・小中学生、保護者、地域は進学の出口を重要視している。長野市や須坂市、私学に行かなくても国公立や難関私立に進学可能と思える学びを考えることが大事かと思う。
・制服を作る際には性別にこだわらず、その生徒自身でズボンを履きたいのかスカート履きたいのかを決めさせるべきだと思います。
・懇話会のミッションが不明確。施設、教育課程、校名等の何に対して意見を出し、どう反映させていくのか、決定権を持っているのは誰か、示してほしい。
・会議の開催時間を生徒の負担とならないように配慮していただきたい。

Nagano School Design プロジェクト ～中野総合学科新校～

みんなで作る未来の学校
「学校づくり-ひとづくり-地域づくり」

高校教育課
高校再編推進室

6



ガラス展示棚の作品越しに、
中の作業風景が見える

NSDプロジェクト 各新校の進捗の様子はこちら

長野県ホームページより【URL】
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/nsd/nsd_toppage.html



県立学校学習空間デザイン検討委員会 最終報告書「長野県スクールデザイン2020」はこちら

長野県ホームページより
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/dezain/toppage.html>



「想い」や「考え」を「かたち」にするために、
実際にプロダクト（制作物）に具現化

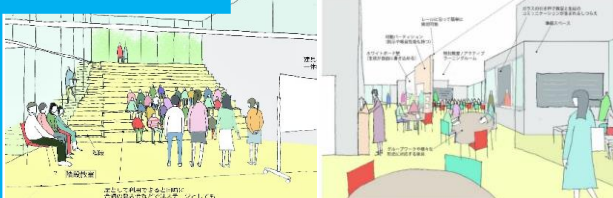
議論などを通じて目や手
を動かしながら試行
何かを創造するための工夫やソリューション等を
備えた「クリエイティブラボ」

7

県立学校学習空間デザイン検討委員会

最終報告書「長野県スクールデザイン2020」(2020年8月)

学習空間



階段教室とフレキシブルホール (フレキシブルラーニングエリア)

生活空間



ラウンジ・ロッカー

執務空間



大職員室

共創空間



地域連携協働室

NSDプロジェクト 中野総合学科新校施設整備事業基本計画策定支援業務委託

【プロポーザル実施要領】

審査委員会委員長ステートメント

- I 趣旨
- II 一般事項
- III 日程
- IV 参加者の資格要件
- V 審査
- VI 手続き
- VII 基本計画策定支援業務委託契約
- VIII 提出書類の取扱い
- IX 留意事項

【プロポーザル実施要領(別冊)】

- 中野総合学科新校施設整備事業の計画概要
- 参加表明書作成要領
- 審査時提出書類作成要領
- 提案書のテーマ
- 「長野県建設コンサルタント等の業務入札参加資格」のない者に求める提出書類
- 付属資料
 - (資料1) 諸要件 (資料2) 配置・案内図
 - (資料3) 航空写真 (資料4) 都市計画図
 - (資料5) 中野総合学科新校イメージ
 - (資料6) 地盤調査データ
 - (資料7) 中野立志館高等学校教室配置



長野県教育委員会ホームページ

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/puopo/nsd-nakano.html>

NSDと総合学科×ESD

【プロポーザル実施要領 抜粋】

中野地域の伝統ある両校が、再編統合を機にそれぞれの特色である総合学科、ユネスコスクールの学びを継承し、ユネスコスクールの中心的な学びであるESD(持続可能な開発のための教育)をベースにグローバルな人材を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の拠点としての総合学科新校となることを地域も期待しています。再編により名実ともに新たなスタートを迎える中野総合学科新校が、総合学科高校として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現できる空間となるように、学びと空間の環境整備を進めていきます。

10

10

中野総合学科新校での1日の生活イメージ

- ・総合学科の学び（単位制・必修科目「産業社会と人間」）
- ・1日の生活の中に空きコマが想定されている点
- ・ゆとりある生活空間（廊下、階段、ロッカー、ラウンジ）
- ・生徒同士や地域の人とのディスカッションができる空間
- ・屋上も活動場所になるという点（安全面の考慮を求める）

【プロポーザル(別冊)資料「中野総合学科新校で1日の生活(イメージ)」抜粋】

- ・これから屋上のベンチで持ってきたおにぎりを食べる。屋上は、緑があって開放的なスペースで、空きコマに実習先の担当者との打ち合わせに使っている人もいる。
- ・この学校は単位制で2年次から生徒が自分で時間割を組んでいくことが特徴だ。講座の中には外部講師のオンラインでの授業もある。
- ・5、6時間目は「産業社会と人間」である。5時間目は、大講義室で1年次の生徒全員が集まり、全体説明があり、6時間目は個々に分かれて、科目担当、進路指導、担任の先生方とのディスカッション。科目選択の夢が広がった。
- ・様々な場所や仲間から新たなコミュニティができるのも、この学校のいいところ

11

現校舎配置(中野立志館高校)と整備対象棟等について

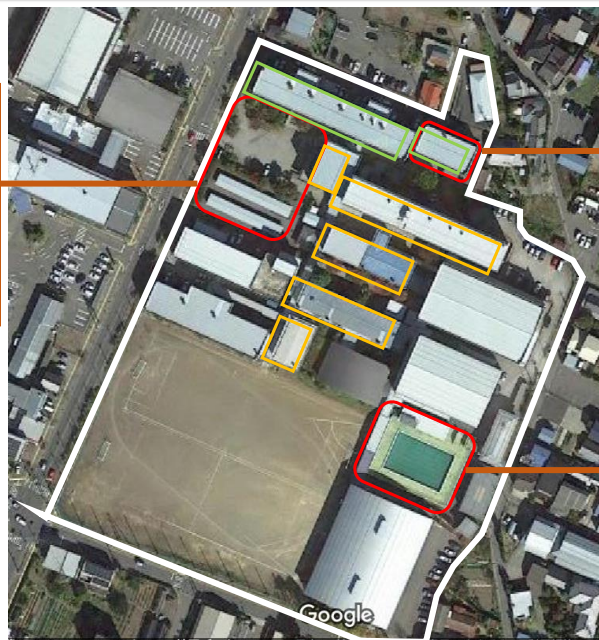


12

12

現校舎配置(中野立志館高校)と整備対象棟等について

○昇降口前・駐輪場
 ・学習環境の向上、新校が目指す学びの実現のために、経済性や合理性を考慮した上で、駐車場や駐輪場の配置及び台数の変更や入口の新設についても排除せず検討すること



○音楽室棟
 ・経済性や合理性を考慮した上で除却を可とする
 ・除却による新築する施設の延床面積の増は不可

○プール
 ・経済性や合理性を考慮した上で除却を可とする

13

13

審査方法 一次審査、二次審査

【審査委員】

(分野別・五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属・役職	分野	
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ代表取締役	建築	
	寺内 美紀子	信州大学・教授		
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所代表取締役		
	垣野 義典	東京理科大学・教授		建築 教育
	高橋 純	東京学芸大学・教授		教育
	武者 忠彦	立教大学・教授		地域

【事務局アドバイザー】

東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻 教授 小野田 泰明 氏

14

14

審査方法 一次審査、二次審査

【一次審査提出書類】

- 管理技術者の経歴書
- 管理技術者の代表作品
- 建築(意匠)主任担当技術者の経歴書・代表作品
- 管理技術者・主任担当技術者の業務実績
- 業務の実施体制
- 提案書
 - ①敷地条件等への建設的アプローチ
 - ②NSDにふさわしい学習空間に対する理解及び検討
 - ③構造・設備と事業全体のコストコントロール
 - ④事業実施に係るプロセスマネジメント

15

15

(資料5)

中野総合学科新校での1日の生活(イメージ)

朝、家を出て、えのき工場、果樹園を抜け、中野市街地に向けて自転車のペダルを漕いでいる。10月に入り薄着だと肌寒いが、今日も朝から天気が良い。前方を見ると、中央に高社山、左に北信五岳、右に志賀高原の山々がはっきり見える。学校の正門で同じ1年2組のさくらさんと一緒になった。さくらさんは電車通学をしていて、電車を降りてから歩いて8分ぐらいで学校に到着するらしい。今朝は寝坊して朝飯抜きだったらしく、これから屋上のベンチで持ってきたおにぎりを食べるというので、昼食と一緒に食べる約束をして玄関で別れた。この学校には、休み時間や空きコマ、放課後に自由に使える屋上のスペースやFLAがある。屋上は、緑があって開放的なスペースで、空きコマに実習先の担当者との打ち合わせに使っている人もいる。

1～3時間目は、ホームルーム教室での授業。この学校は単位制で2年次から生徒が自分で時間割を組んでいくことが特徴だ。1年次は基本的にはクラス単位での授業となっている。理科と芸術が選択科目、数学や英語の授業は、2～3クラスを3～5講座に分けた少人数授業となっていて、個々の生徒の学習進度にあわせた講座が用意されている。その講座の中には外部講師のオンラインでの授業もある。2年次以降の選択科目では、他のクラスの友達や先輩たちと一緒に授業を受けることになる。色んな人たちと授業が受けられることを、今から楽しみにしている。

4時間目は「体育」。体操着に着替えるために更衣室へ急がなければならない。それぞれの教室へ向かう生徒が、広い廊下や階段、ロッカースペースをスムーズに移動している。

昼休みの時間、さくらさんとラウンジに行った。席を探していると2年生の恵先輩と一緒に食べようと声を掛けてくれたので3人で話をしながら昼食を楽しんだ。最近の昼休みは、科目選択や進路の話で盛り上がっている。お互いに悩みを聞いてもらえる貴重な時間だ。

さくらさんは、情報関係の仕事に就きたいと考え大学進学を目指している。一般選抜での受験を考えているようだが、総合型選抜での受験も視野に工業や商業の情報系科目も選択しようか迷っているようだ。毎日、放課後に静かな学習スペースで集中して勉強していると言っていた。学習スペースでは先生から補習や個別指導を受けたり、空きコマにも自習のためにも利用できるため多くの人が利用していて、先輩方からも受験情報など色々なアドバイスをもらったりしていると言っていた。

恵先輩は、今日の5時間目の「服飾手芸」の時間に被服室で打合せがあると言っていた。来週、幼稚園に訪問して、園児と中野市伝統の土人形を作ることを地域共学共創コンソーシアムのコーディネーターと幼稚園の先生と一緒に計画しているようだ。恵先輩は、保育士と幼稚園教諭、両方の養成課程がある大学への進学を考えていて、「保育基礎」の他、「服飾手芸」、「フードデザイン」などの家庭科科目、「こころとからだの理解」などの福祉科科目も選択していると言っていた。園児と直接触れ合うことや幼稚園教諭の方から直接指導いただくことで、園児との寄り添い方や課題など、将来のイメージを深めているようだ。

それぞれの夢や悩みを話していたら、あっという間に昼休みの時間が終わってしまった。急いで大講義室に行かなくちゃ。5、6時間目は「産業社会と人間」である。5時間目は、大講義室で1年次の生徒全員が集まり、全体説明があり、6時間目は個々に分かれて、科目担当、進路指導、担任の先生方とのディスカッション、終わりには科目選択の希望調査用紙の提出がある。

「産業社会と人間」の授業では、4月から「自己理解」、「職業理解」、「産業社会の変化」などについて、大講義室やFLAで地域の方や外部の専門家に講演していただいたり、自分で調べたことをグループ

ワークで話し合ったりしながら、自分の進路やライフプランについて考えてきた。私は母の姿を見て介護の仕事に就きたいと思うようになり、福祉に関する科目やそれに伴う実習設備がある、この学校に入学した。自分の進路実現のため、普通科目や、工業、商業、福祉、家庭、情報などの専門科目について説明を受けたり、校内の施設・設備を見学したり、先輩や外部講師、担任の先生からのアドバイスももらったりして、2年次、3年次の科目選択について検討している。

6時間目になり、福祉科目の先生からアドバイスをもらう約束をしていたので、大職員室へ先生を訪ねた。「産業社会と人間」の担当の先生との打合せが少し長引いているようだったので、FLAで先生を待っていた。隣のテーブルでは、3年次の「総合的な探究の時間」で、中野市のお助け隊の山本さんとスキー部の和美先輩のグループが、地域の高齢化・人口減少や空き家問題についてタブレットで資料を共有しながらディスカッションしていた。その様子を何気なく眺めていたら、和美先輩から一緒に話そうと声をかけられた。突然ではあったが、中野市の福祉や介護問題などの地域の課題について話をすることができ、自分の進路や科目選択について背中を押された気がした。

和美先輩たちとの話が終わった後、福祉科目の先生が個室となっている学習室に入るように声を掛けてくれた。面接では、福祉に関わる進路について、先ほどの和美先輩たちの活動のことを交えながら、福祉に関わる科目以外の選択科目の相談ができて、これからの科目選択の夢が広がった。

放課後、スキー部の練習に参加した。6時間目に声をかけてくれた和美先輩と話をした。私が心細そうな顔で隣のテーブルにいたので声をかけたと言われた。一緒にいたお助け隊の山本さんは、定期的に学校に常駐している中野市職員の方で、今日が担当の日だったそうだ。この学校は、ユネスコスクールに認定された総合学科高校として、様々な活動での課題発見・課題解決を通じた学びが充実している。例えば、志賀高原でのユネスコエコパークでの植樹や、コーヒーのフェアトレードなど、環境問題を身近な課題として捉え活動を行っている。和美先輩のグループでは、中野市や山ノ内町の方から意見を聞くためのフィールドワークを行っていて、来週、台湾の姉妹校と国内のユネスコスクールの3校でのオンライン意見発表会があるとのことだった。今日は高齢化問題などの中野市の福祉に関わる課題が話題になったところで、私が介護福祉士になりたいと言っていたことを思い出して声をかけたということであった。和美先輩から、「卒業しても、この活動を継続していきたいから、これから一緒に活動してよ！」と言われた。様々な場所や仲間から新たなコミュニティができるのも、この学校のいいところである。

NSDプロジェクト 中野総合学科新校施設整備の今後の予定について

高校教育課

県教委

懇話会・学校(職員・生徒)

7月12日 プロポーザル公告

7月29日 現地説明会

プロポーザル参加希望者が参加
新校の説明と学校施設や周辺環境等の視察を実施

8月5日 参加表明締切

参加表明書の提出(7月31日から)

8月7日 審査委員現地視察

新校の説明、学校施設や周辺環境等を委員が視察

9月17日 一次審査(非公開)

二次審査参加者 4者を選考

11月10日 二次審査(公開) 中野立志館高校にて

二次審査参加者によるプレゼンと審査委員のヒアリング
*懇話会構成員の皆様はぜひご参加ください

11月中旬 最適候補者等決定

11月下旬 委託契約締結

受託事業者(パートナー)によるワークショップ開催

契約業者と新校における学び・生活風景等を共有、先行事例等を学びながら新校の施設整備について意見交換。学校職員・生徒対象と地域対象の2つのワークショップをそれぞれ複数回開催する予定。

WG(ワーキンググループ)による検討
・教育課程 ・施設整備 ・部活動
などをより具体的に

第14回懇話会(7月29日)

・プロポーザル実施要領、
スケジュールの説明

第15回懇話会(10月)

・教育課程等の検討状況の
報告と意見交換
・学び・生活風景等を共有

第16回懇話会(12月)

・受託事業者の報告
・ワークショップ等の説明

令和6年

令和7年6月 基本計画策定

令和8年度～ 基本設計、実施設計、工事

令和12年度 開校

中野総合学科新校統合方法について

○年次統合

全日制		R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
中野西	R7入学	3年						
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	3年			
	R11入学			1年	2年	3年		
立志館	R7入学	3年						
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	3年			
	R11入学			1年	2年	3年		
新校	R12入学		令和12年4月開校		1年	2年	3年	
	R13入学					1年	2年	3年
	R14入学						1年	2年
	R15入学							1年

定時制		R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
立志館	R6入学	4年						
	R7入学	3年	4年					
	R8入学	2年	3年	4年	令和12年4月募集停止			
	R9入学	1年	2年	3年	4年			
	R10入学		1年	2年	3年	4年		
	R11入学			1年	2年	3年	4年	統合完了
新校	R12入学		令和12年4月開校		1年	2年	3年	4年
	R13入学					1年	2年	3年
	R14入学						1年	2年
	R15入学							1年

○一斉統合

全日制		R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
中野西	R7入学	3年			統合完了			
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	転校			
	R11入学			1年				
立志館	R7入学	3年						
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	↓			
	R11入学			1年				
新校	R10入学				3年			
					3年			
	R11入学				2年	3年		
					2年	3年		
	R12入学		令和12年4月開校		1年	2年	3年	
	R13入学					1年	2年	3年
	R14入学						1年	2年
R15入学							1年	

定時制		R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
立志館	R6入学	4年						
	R7入学	3年	4年					
	R8入学	2年	3年	4年	令和12年4月募集停止			
	R9入学	1年	2年	3年	転校			
	R10入学		1年	2年				
	R11入学			1年	↓			
新校	R9入学				4年			
	R10入学				3年	4年		
	R11入学				2年	3年	4年	
	R12入学		令和12年4月開校		1年	2年	3年	4年
	R13入学					1年	2年	3年
	R14入学						1年	2年
	R15入学							1年

中野総合学科新校の統合方法について

1 第1期再編での統合状況

年次統合	飯山高校 中野立志館高校 須坂創成高校 木曾青峰高校
一斉統合	佐久平総合技術高校 飯田OIDE長姫高校 大町岳陽高校

2 統合方法によって考えられること

項目	年次統合	一斉	備考
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・開校前年度までに確定することが必要である ・開校時の両校の2・3年生に対して、卒業までカリキュラムに影響がないことを説明しておく必要がある 	(令和12年度開校時の2・3年生(転校生)) <ul style="list-style-type: none"> ・令和9年度(入学前年度)には確定していなければならない ・入学した時点で新校の理念に沿った教育課程編成が必要 ・「産業社会と人間」の履修についての検討が必要であり、中野西の教育課程に負担がかかってしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生等へ広報していくことを考えると、更に早い段階で確定しなければいけない
生徒会・部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・3校それぞれでの活動を行うことになり、どのように連携していくか検討が必要 (部活動は必要に応じて合同チームとして活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次統合と同様に、今まで別の活動を行っていた状態から一緒になることでの負担がある ・それまで1～2年間活動してきた生徒会が転校により新たな生徒会活動を行っていくことになる ・一緒になることや学校名や理念が変わる中で、新入生を迎えなければならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新校開校前から連携していくことが必要である
生徒負担	<ul style="list-style-type: none"> ・中野西生徒は、2学年、1学年のみとなり、後輩のいない状況となる(立志館生は、新校1年生、2年生が後輩となる) 	(開校時の2・3年生) <ul style="list-style-type: none"> ・その理念の学校に入学したのに違う理念の学校に転校して卒業することになる ・中野西の生徒は、通学場所等の環境が変わってしまう 	
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・新校と立志館では兼務の必要 ・中野西では教員定数の減 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に加え、転校してきた2・3年生を教えることになる 	
校舎整備		<ul style="list-style-type: none"> ・転校する生徒の学級数で活動できる校舎整備が必要 ・令和10年度～11年度入学生の学級数を新校の学級数(7～8学級)としておく必要がある 	

中野立志館高校の統合

○年次統合

カッコ内は学級数

全日制		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	校舎
中野	H14入学	3年			平成19年4月募集停止				中野
	H15入学	2年	3年						
	H16入学	1年	2年	3年					
	H17入学		1年(5)	2年(5)		3年(5)			
	H18入学			1年(4)		2年(4)	3年(4)		
中野立志館	H19入学		平成19年4月開校		1年(7)				中野実業
	H20入学					2年(7)	3年(7)		
	H21入学					1年(7)	2年(7)	3年(7)	
	H21入学						1年(6)	2年(6)	
中野実業	H14入学	3年			平成19年4月募集停止				中野立志館
	H15入学	2年	3年						
	H16入学	1年	2年	3年					
	H17入学		1年(5)	2年(5)		3年(5)			
H18入学			1年(5)	2年(5)	3年(5)				

定時制		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	校舎
中野実業	R6入学	4年			平成19年4月募集停止				中野実業
	R7入学	3年	4年						
	R8入学	2年	3年	4年					
	R9入学	1年	2年	3年		4年			
	R10入学		1年	2年		3年	4年		
	R11入学			1年		2年	3年	4年	
中野立志館	R12入学		平成19年4月開校		1年	2年	3年	4年	中野実業
	R13入学					1年	2年	3年	
	R14入学						1年	2年	
	R15入学							1年	

○状況

- ・平成19年4月に開校
- ・工事完了が開校年度以降となったため、中野実業高校校舎では教室が足りず、1期生（平成19年度入学生は中野高校校舎を使用（大講義室が平成19年度に完成、電気科棟を総合実習棟、土木科棟を定時制棟に改築・改修、平成20年度に完了）
- ・平成21年度は、中野高校校舎に中野高校3年生のみで学校生活

○学習・生徒会・部活動

- ・中野立志館高校は2学期制としたため、中野高校も平成19年度は2学期制としたが、中野実業高校は3学期制のまま
- ・生徒会は別組織として活動していたが、文化祭は同時開催（連携もあり）
- ・部活動は、大会等へ合同チームとして出場

○教員

- ・中野高校と中野立志館高校を兼務（平成19～20年度）
- ・中野実業と中野立志館高校を兼務（平成20年度）
- ・職員会は、それぞれ独立して開催

中野立志館高校・中野西高校の一週間に開校している授業の状況

○中野立志館高校（6時間/日×5日＝30時間）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年次	現代国語	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	科学と人間生活	体育	保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	家庭基礎	情報Ⅰ	産業社会と人間	LHR															
2年次	文学国語	公民	数学Ⅱ・看護系数学	理科基礎 選択	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	選択科目10or14単位										総合的な探究の時間	LHR											
			基礎数学				基礎英語																							
3年次	文学国語	地理総合	体育	選択科目22単位												総合的な探究の時間	LHR													

○中野西高校（6時間/日×4日＋7時間/日×1日＝31時間）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年次	現代国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	LHR															
文系	2年次	論理国語	文学国語	文章表現	国際理解	地理探究 日本史探究 世界史探究		公共	地学基礎	体育	保健	古典読解 数学BC 音美書Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	総合的な探究の時間	LHR														
				数学Ⅱ		選択科目10単位	政治・経済					英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	総合的な探究の時間	LHR																
理系	2年次	論理国語	文学国語	公共	数学Ⅱ	数学BC	化学	物理基礎	物理	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	総合的な探究の時間	LHR															
								地学基礎	生物																						
3年次	論理国語	文学国語	政治・経済	数学Ⅲ	数学BC	化学	物理 生物	体育	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	総合的な探究の時間	LHR																			
													選択科目2単位	数学探究α																	

複数校合同チームによる大会への参加についての考え方

運動部活動部員数の減少が深刻な状況にある学校が増加したこともあり、全国的に複数校合同での部活動が進められている。

複数校合同チームによる大会参加についての社会的要請があることを受け、部活動活性化のために本連盟が平成14年3月に認めた団体競技種目における複数校合同チームによる大会参加は、あくまで部活動にひたむきに取り組んでいる生徒に発表の場を提供するための教育的配慮に基づくものである。

したがって、各学校の部活動運営にあたっては上記の趣旨を踏まえ、創意工夫を凝らして部員数の確保に努めるとともに可能な限り学校単位での大会参加ができるよう努力することが望ましい。一方で、加速する少子化傾向への対策として部員不足に伴う合同チーム編成についても適切に導入・実施されるべきものとする。

これらの考え方に基づいて、複数校合同チームによる大会参加については以下のように取り扱うこととした。

1. 部員不足に伴う複数校合同チームの大会参加について

- (1) 全国高等学校総合体育大会は学校対抗を原則としているが、部員不足により各学校を単位として大会に参加する要件を満たすことができない場合、必要な手続きを経た上で、複数校合同チームの参加を認めることとする。
- (2) 各都道府県高体連及び専門部においては、各都道府県の大会等の参加に関する基準等を検討し、実施可能な専門部から合同チームが成果を発表できる場を設けるよう努力する。その際、合同チームの編成が勝利至上主義的発想で行われることのないよう十分留意する。

2. 学校の統廃合（設置者による学校の廃止及び廃止に伴う複数の学校の統合で、募集停止を伴うものをいう、以下同じ）に伴う複数校合同チームの大会参加について

- (1) 学校の統廃合は行政を含む設置者の都合によるものであるため、当該校に在籍する生徒の活動を保障するために、統廃合完了前の2年間に限り合同チームを組んで全国高等学校総合体育大会に参加することを認める。
- (2) 統廃合の予定があっても合同チームを編成せず、単独チームで出場することもできる。これについては学校毎ではなく、部活動毎に取り扱うものとする。
- (3) 同一競技において、選手が単独チームと合同チームの両方から大会に出場することはできない。

旧第1～3通学区 中学校卒業生数と全日制の募集学級数

年齢	現高2 高1 中3										2024年(R6)4月資料					高校再編推進室			
	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
高校入学年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
旧第1中学校卒業生数	255	265	250	256	233	234	168	216	215	187	201	208	191	178	174	167	149	144	145
前年度比増減	-10	10	-15	6	-23	1	-66	48	-1	-28	14	7	-17	-13	-4	-7	-18	-5	1
旧第2中学校卒業生数	1165	1059	1031	1084	1084	1034	997	984	990	984	998	976	925	885	875	826	804	739	757
前年度比増減	-6	-106	-28	53	0	-50	-37	-13	6	-6	14	-22	-51	-40	-10	-49	-22	-65	18
旧第3中学校卒業生数	2582	2567	2378	2459	2461	2413	2335	2389	2228	2125	2012	2037	1955	1957	1902	1686	1597	1630	1668
前年度比増減	-6	-15	-189	81	2	-48	-78	54	-161	-103	-113	25	-82	2	-55	-216	-89	33	38
中野立志館	6	5	5	5	5	5													
中野西	5	5	4	5	5	5						7~8	中野総合学科新校						
須坂	6	6	6	6	6	6													
須坂東	5	4	4	4	4	3													
須坂創成	7	7	7	7	7	7					7		須坂新校						
学級数合計	29	27	26	27	27	26													

(注1) 令和15年度までは、令和6年度学校基本調査による数

(注2) 令和16年度以降は、令和6年度長野県人口異動調査(4月1日現在)による数

旧第2通学区 中学校卒業生数と全日制募集学級数の推移

